

1 研究主題

研究主題：思考力・判断力・表現力を高める学びの追求
～あいタイムのねらいの明確化や学習習慣の定着を目指して～

2 主題設定の理由

(1) はじめに

児童生徒は、島の最盛期の人口に比べると現在の人口は 1/5 の 350 人にまで減っていることや、島を取り巻く自然環境は次第に水産業を営むには困難になりつつあることなどを家族や島の住民から聞いている。子どもたちは、将来島に留まるにしろ、島を出て自活するにしろ、今後の日本が直面する社会・環境・エネルギー・資源・食料・人口等の問題に正面から向き合って生きていくことになる。彼らのおかれた環境で活躍していく上で、最後に頼ることのできる自己を育てることは大変重要である。そこで、9年間の小中連携の学習過程を通じて、職員が共通の意識をもって子どもたちの育成を図ることが重要である。

(2) 児童生徒の実態

本校は少人数（4月1日現在 33名）の小中併設校であり、授業規模も極少数（最少2名）で行う学年・教科もある。授業や小中児童生徒交流等で、人前で発言の機会に恵まれているため、授業や全校行事においても、自分の感想等を言うことには抵抗のない児童生徒が多い。しかし、自ら課題を設定して計画し実践していく力や、自分の考えを論理的にわかりやすく話す等の思考力・判断力・表現力が十分育っていないのが現状である。また9年間、単一学級で人間関係が固定化されているため、児童間、生徒間の学習に対しての競争意識が低い傾向にある。家庭環境や生育歴により学習の習慣が十分に身につけていないことから基礎学力の定着が不十分な児童生徒も見られる。そのため学力には個人差が大きい。

(3) 研究の過程

昨年度は、「主体的・対話的で深い学びの追求」を目指し学びの常態化に努めてきた。研究を通して、各学年や教科領域、あるいは極小規模に応じた主体的・対話的で深い学びを「あいタイム」として具現化し、それを共有することで一定の成果を収めることができた。「常態化」については、ほぼ毎時間「あいタイム」を設定しやすい教科があれば、単元の中でポイントを絞った「あいタイム」の設定が有効だと思われる教科があることが見えてきた。一方、「あいタイム」が授業の中に設定されているものの、そのねらいが明確になっていない事例も見られた。以上のことから、「あいタイムを数多く行う」ことから、「単元を見通した中でいかに有効に設定するか」という視点で授業を実践していく。

そこで、「思考力・判断力・表現力を高める学びの追求」をテーマに掲げることにした。すなわち、「主体的・対話的で深い学びをどうとらえて単元構成や授業づくりを具現化していくか」「授業内容の定着と発展的な思考課題を、家庭学習を通じていかに定着させていくか」ということである。

そこで本年度は以下の三点を重点とする。

一つ目は、昨年度の授業課題を踏まえた「単元を見通した主体的・対話的で深い学びの位置づけ」である。思考力を育てるため、学年・教科領域・人数に応じた学習環境の工夫や、学習課題（めあて）の立て方・与え方や、思考を促すツールの活用や、思考スキルの定着や、評価方法などの実践研究していく。（授業改善部）

二つ目は、学習習慣を身につけることと、学習の定着と思考力をさらに高めるための家庭学習指導の工夫である。（学習習慣部）

三つ目は、行事を通じた日々の児童生徒どうし関わりの中で、授業で培った思考力・判断力・表現力を発揮して社会に出た時に役に立つ実践力を身につけさせることである。(交流活動推進部)

これら三つの取組を通じて、「最後に頼ることのできる自己」を身につけた21世紀を生き抜く児童生徒の育成を図りたいと考え、本主題を設定した。

3 研究の目的

- ・授業において考え方・能力を養わせることをねらいとした主体的・対話的で深い学びを通して、思考力・判断力・表現力等の育成を図る。
- ・思考力・判断力・表現力等を高めるための家庭学習習慣の定着を図る。
- ・行事等の中で、思考力・判断力・表現力を高める場を設定し、実践力の向上を図る。

4 目指す児童生徒像

・授業や行事の中で、これまで身につけた思考スキルやコミュニケーションスキルを使って、適切な思考・判断・表現を行い、友達と共に共通の目標達成に向かい努力する児童生徒。

5 研究の仮説

小中の教育活動において、授業や活動のねらいに対する視点を明確にした上で、話し合いの場、お互いの意見を交流する場を有効的に設定することにより、児童生徒は学習意欲を高め、他者と係わる力やコミュニケーション能力が高まり、思考力・判断力・表現力を身につけていくことができるであろう。

6 研究の内容

以下の(1)～(3)の部会に分かれて研究を行い、適宜アンケート等を実施して変容を見る。

(1)「あいタイム」のねらいを明確にした効果的な授業づくりの研究(授業改善部)

- ・一人一回の研究授業と授業研究会の実施
- ・学習環境の工夫や、学習課題(スモールステップ～ジャンプ課題)の立て方・与え方や、思考を促すツールの活用や、思考スキルの定着や、「あいタイム」実施や、評価(教師・他者評価や自己評価やルーブリック評価)の工夫

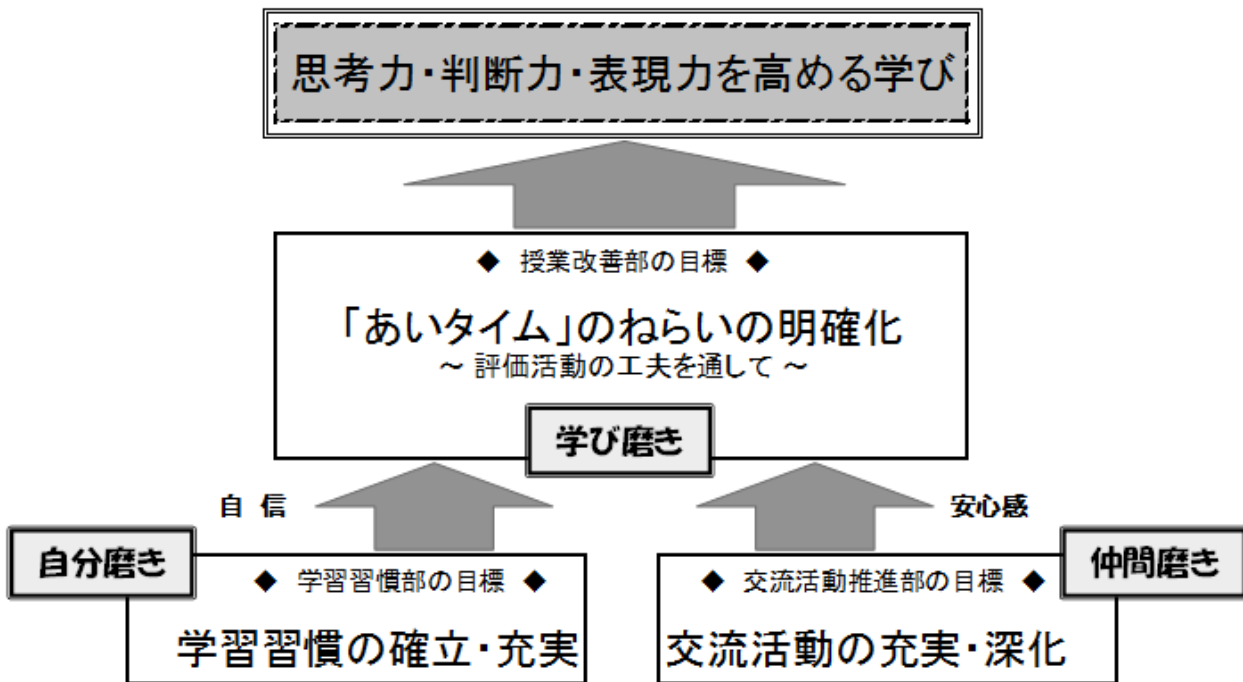
(2) 学習習慣の工夫改善(学習習慣部)

- ・読み書き計算をはじめとする基礎基本の定着を目指した取組
- ・基本的な生活習慣の定着に向けての実態把握と指導の取組(冊子「馬渡小中学校の勉強のしかた」を元にした学習指導の授業実施、学活ノート改善の取組)
- ・思考力・判断力・表現力を高める宿題や定期テスト等の取組
- ・中学校の定期テスト中に合わせた小学生の強化勉強習慣実施

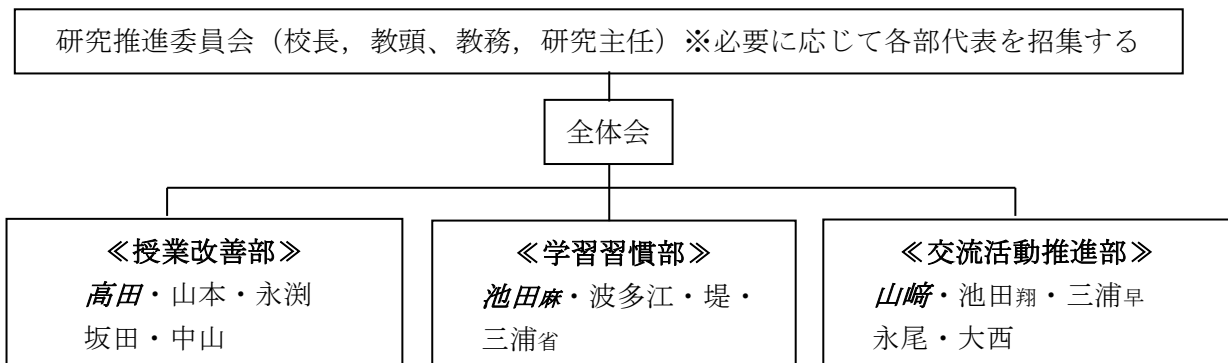
(3) 様々な形態での交流活動の推進(交流活動推進部)

- ・文化的行事、体育的行事などの学校行事での小中一貫活動の取り組み
- ・児童会、生徒会活動の内容の精選、共通実践の計画立案と主体的な運営
- ・全校、小中別、ブロック別、異学年同士など交流活動の計画と実施
- ・「4-3-2」ブロック毎の言語に関する到達目標の設定とスピーチ朝会等における効果的な表現活動の在り方の検討

7 研究の構想図



8 研究の組織



(斜体が部会長)